安產要訣

8
a 8

Kitasato Memorial Medical Library
F 7-17

安產要語

序文

全

490.9
Am-5

No. 1168

1冊 a 8

Kitasato Memorial Medical Library

慶應義塾大學醫學部圖書

慶應義塾大學醫學情報センター
昭和47年6月29日

富士川文庫

929

北里文庫

洪序

夫產要訣
易只了地祇猥
物化醇男女播精
萬物化生老子曰
兵神不死沼之玄

Kitasato Memorial Medical Library

牝大哉了矣能知
屁天而後論牝岐
家之術則見屁不
全牛也玄玄子正
有見於斯矣要帰

之天而一煉之色石
者也貴妬卑女枕
席此責則鎮魂宅
心養胎易產何揮
茶毒豈有怵惕屁

Kitasato Memorial Medical Library

東京都立中央図書館
特別文庫室

安產寶誌

小倉藩醫川口修良玄著

○良玄姓川口名保久称良玄
出羽人為川口玄厚子養
分与食地仕 公室為侍醫

予聞ク世ニ產死セシモノ多キヨリ我養ヒ子ヲ編
ミ其方ヲ抽ンデ示ス多クハ門外屋宇家
戸ノ間ヨリ生ル實ニ將安穩民ニ其益少シ
況ヤ他ノ一ニ自然ヨリ生ルモノニ於テハ
如何ヨリ生ル伝ヘ聞ク人ハ人ノ子ヲ生ルヲ天地生ル
乃大德ヨリシテ本ヨリ人間ニ作ル出ル事ハ代
古ヨリ其ノ理ヲ乱ル事ヲ不可ト雖モ
今ノ世上ノ人多クハ姙子ノ始ヲ忘レ終ヲ

Kitasato Memorial Medical Library

示命ニ
一生用心
勤矣、於三省哉
寛政戊午孟春
（安政四年丁巳歳迄ニ九整六十年）
三州 喜庵 長直之撰

ちゝの数と若し元其の気と為り文病気より発
大元天地の間都て一元言まして人其気平生
大気と吐納一分数成ると雖とも其元気
滅き生じて形を成ると雖とも元気と
性とを元気より成る故と雖多の性とその元気
と分ちて者てまた分て自然より出る雖
模造て生じ人六十叶説と唱ふ人一分
世上の医師人皆自ら其病を知ずして
歴まふ医師と説と程合と一冊よりまた其

文北部治りて医師人世の一助なる人
中まして敢て辞と説ざるのみ人の年よりて
あるべく

一 経の人多少ありと月毎に汐の如く
二十三日に至て月毎に汐の如く
月毎に経汐有潮と病
北部人多く汐有て病なく其状
かくの如くなり経の病は長血血塊脂膏
腰痛ちぢび全身倦怠精神
関節毒病大槩如汐の法と病
変るとも汐有の病

Kitasato Memorial Medical Library

多くして血色すぐれず甚だ寒冷ハ血液の多少なるに血多きものハ血の交流緩くして血少きものハ血の色濃く性急にして熱しやすく婦人ハ常に血多き婦人ハ血いよいよ多く満て月経の周期ひとしく来ス婦人の生ハ常に散発性にして月経ハ或ハ経閉ひとしく来ス婦人ハ血少き婦人ハ血いよいよ多く満て月経の周期ひとしく来ス婦人の生ハ常に散発性にして月経ハ或ハ経閉ひとしく来ス婦人ハ血少き婦人ハ血いよいよ多く満て月経の周期ひとしく来ス婦人の生ハ常に散発性にして月経ハ或ハ経閉

一

経ハ月毎に来ス婦人ハ命りよ業と称ス性格ハ性格ハ性格ハ

一 婦人経水甚だしくして分娩と氣うとと二役の通じる事の如く脈すること〻〻脈弱よりして力なるもの〻〻
又多くは陰虚血熱より出る脈は他人の知ることなき婦人は七七四十九歳の悪阻経よりつゞいて又〻
〻の癖病となりて多く陰虚の婦人は書氣強して去氣衰弱
性脆となり又は陰虚血熱の病人の脈は脈弱
時々大便秘結の病人は脈弱
性強て湯なく細湯と去遊ぶ経よりは祇風と湿氣と
陰不足よりくるもの〻時毒早く発するは陰門腫痛
くして痛みて大小便氣閉して溺脈
となり或は溺して内に出し男子の病氣のごとく陰脈引
ひて痛み陰茎の物となる大小便又は閉
交合を性急にして如よりは陰茎の陰まるなり
之を内氣和和と共に
溺孔よりもの

禁食

大鯛 高麗 鯉 鮒 鰍 鰌 鯨 海豹
白魚 ひらめ 蛸 ほうぼう かぼちゃ 胡瓜
茄子 こんにゃく 蕨 きくらげ
白ひとまきのからみ 海苔

Kitasato Memorial Medical Library

たゝの水にて食すべし酒まてる物ハ毒なり
不食ハ一ヘてとくうるもの

一 膀胱ハ母子の一神如空居之韓江代一分水腎経行月令
注北到会不会布之所後之帝之注之帝之
之元膀胱の始ハ気と世ハ法出るよ腎経少
之めとも膀胱ともぶとを定て之ふみ
著者の経脈迎新類編あく腎経のもと拙録する
の視と如引まで膀胱と上下罪
陣の血氣不武ハ脳筆頭痛武ハ法手足
武ハ不食深腎経之仕方もひと産後ハ産後
悩むこの多一腎ハ形化氣と叫腎経あ
ら出元氣分脈ハ不端出生ましを不弱
多病腎経中ハ腎経ハ又産分之
ちでもてのもはをとバ多
経脈ハ又ましの長行ハ脈中雖
して世北分脈ハ氣分中和まして腎経
の形ハ産ましを凝ハ
膀胱神の脈ハ産の術を腎ハ叫術を
腎ハ脈人産分ハ脈の産ましハ陰産生分
腎の産ハ産ハ雖産ましハ産少

Kitasato Memorial Medical Library

叶ふる灸法と申すは北斗術と申て毎夕方
ゑ一丈術は一丈ゑはよろ度静よ灸して色の氣と
あるさ元自分の手をかさねたるのうへ自分北斗
と云て下より小指迄都合と拵おろし目と閉色の氣と補
元又細指北斗より前の方へ歯合と拵出しるる頃
り都合ことなるべし毒分るる氣と拵り小腹氣海へ
氣をあるさめ拵年中の毎夕灸除毒過毎日
三度怪意なる毎夕灸はあるべきなる歟
叶術は毒婦のうへ行べ男子と毎日毎夕灸
ゆして毒婦の灸法は行ふ合し

一毒婦の灸法の秘法は叶秘法は千人ゆうと雖
毒なるし男子の人と毒婦のなし毒婦は
ゆうしるる怪き毒は大祭毎一氣分て腎の下り
類りとて小腹と痛と云のうへ毒婦と
秘法と秘術と入るゆうべ其の其雖毒婦
行はバ百一の男子は叶秘法と云て男子一秘法と
ふ毎一氣分て小腹と痛と怪きと云と不過迄
毒の形ゆる毒婦の術なるべ毒婦
くの意しるして毒の男子と毒婦と
毒婦ゆうは叶ゆうて毒婦

しづつよはりて續くして痺なとなりて又起りて痺なの
内とこと過靜まりなりまた又起靜よりはりてはりてはりまた
ちまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまり
り腑下氣海へ氣をあつめて痺氣と出さずぬる
ぬきとて中時刻と過ぎぬるとあ痺氣
秘法なり氏逆ぬきとまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまり
まりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまり
痺門法なりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまり
まりま

ひとのくうちゝひ又脆衣上てきて血をはりなくて死に臨て
浮判まゝ血たまはゝずまた黄質ハ元氣ぞなくて高北
紙くるまゝ元氣ぞなくひてはゝとて高きまゝども
濁薬ばかりずとも血はゝげるとてふとと寒ゝ高きうれ
こゝろとを薬もとと少しとよるとのまゝずまた死きる
ものゝまゝずまた元氣のつぐひてみることをきとの遠ひは
死きゝゝ中きるとの焼はゝ自ふ北元氣と自ふ不
考くまうもゝ元氣ハ一味ゝ減ゝ一味ゝ満るとの遠
又濁薬のくちぶまゝハ上くゝ罪ゝ進ゝ高きゝ高
ゝとしゝ高のゝ濁薬の脆衣のゝ脆衣ハ高北
中きるゝ北中きるゝ出薬ゝてハ元氣北
死きゝ高ゝはゝ病くゝ生くのとゝ病ハ
高ゝ濁ゝ中流のゝ高ゝ苦ゝ茶とゝ
生て病のまゝさゝ教セバ高ゝ日高ゝ教きまゝ
ちぶゝのゝ中きて死きハ十月ゝ高ゝ死きまゝバ
中きまゝちぶゝ元ゝ病日死きまゝ高ゝ
死脆とゝ高ゝ高ゝ死脆とゝ病ゝ自ゝ
あゝづゝちぶゝ高ゝの行ゝ

Kitasato Memorial Medical Library

一 指先は時々乳汁を絞すべきなり
延しまたまた禁じ又指倒またまたまたま

ちゝ乳ハ白乳にて乳ハ白乳にて乳ハ白乳にて

ゝり小がきい竹ゝと食ゝ尽ゝ中ゝ中ゝ中ゝと毒蜂の螫ゝ有
ゝゝゝがひ先ゝ食ハ一あゝて鹹ゝ尽ゝ湯ハ七ゝ度ゝもゝて煮ゝて
用ゝ尽ゝゝハ繁ゝ桐入ゝゝゝゝゝ七ゝ度ゝもゝて煮ゝ煮ゝ、
ゝゝゝゝゝ

とりあてゝいまゝ少ずゝもつかまつる支離とのことゝいふなり
其ものゝ性質よりもてあまし、あるいは罪ゝとなりまじ、
かたくなる病もあるゝ自然と赤葉茨屋ほ風子の中
ゝもの同じ、言のごとくなるし破者のみちんだ
なし、新しくなるものをいとんで用ゆるんこと和平
ゝ物ゝ食せし、ものをぶゝ仍ゝ其道理をんこ変
なるゝ怒憂懼驚る忍或て久ゝとの会得る学の
新ゝ物ゝ知ゝ学ゝ知ゝ乳とくゝ学ゝ者
後ゝ学ゝ学ゝ物ゝ

一平世間ゝ麻ゝ学ゝ者ゝ学ゝ者ゝ学ゝ者

行き死大ゆがいきて、小四位世上往因とたなる時、叶大氣
中く出牛すこと難し。舞うと大氣と呼吸スと
心急き拇の氣逆源尾因金て拇常ハ七月の初
ゆ死あハ金毒ゆ毒ゆ分て獨毒トス、叶毒拇常ハ
乾きかまるよ強い拇中ハ切ハ現出しかのごとく
と尾ゆ毒と死あれ金毒と縛ゆ分毒ゆ縛邪
濕ゆの經脉と金因し、叶ゆ今世の小四位ゆ有る
ハ小一家ゆ出ゆ毒ハ拇と拇の分根ゆて切り
麻せゆと結ゆとゆ切りにく艾と分て毒ハ金
叶法ゆ筋ゆ海ゆ毒ハ小四位ゆ有ハ法なゆ、手
と拇ゆ分根ゆて切り艾と切ゆ切ゆ毒ゆ出毒ゆ拇常
と拇の分根ゆて切り艾と切ゆ切ゆ毒ゆ試ゆ小
ハ小四位ゆ有ゆ毒ゆ毒ゆ痛ゆ毒ゆ、
ゆ法ゆ小ゆ毒ゆ毒ゆ拇常
と拇ゆ分毒ゆ乾き毒ゆ毒ゆ強ゆ毒ゆ
小四位の毒ゆ毒ゆ一年ゆ毒ゆ毒ゆ分毒ゆのゆ
毒の毒ゆ拇ゆ毒ゆと毒ゆ法と毒ゆ毒ゆ毒ゆ拇常
と拇の分根ゆて切ゆと毒ゆいとひゆ拇ゆと拇の分
根ゆて麻せゆと結ゆ加ゆ結ゆ毒ゆ切ゆ
ゆゆ毒ゆ切り獨毒の拇中ゆ入ゆ長結

Kitasato Memorial Medical Library

と屋く岩てのせ生毒あ乳と汚ぐ〜ー所くハ毒の分
根ゝて知り叶ず毒と遊くだ〜

一小児喘ゞ毒風搭ゞ〜ゞ〜ゞ〜

小四郎殿乳部殿より四郎殿と乳部殿へ祝儀
繁ハ御まつの年より時ハ七歳こと七歳とこの
ものとて乳部殿まつの未ハ八九才ハ七歳
祝儀繁へ出ず乳部殿乳ハ十こ分ものだく出ず
乳部殿のもの乳と分て

一 小四郎出生の祝儀ようく遅ぐ三月指の
ものハ七歳の四月ものこと切て出ず七歳と繁

一 出生の小四郎母ものと頭よ角のあく疫ものぶ出ずく
ものと時ものもの小四郎ものもの乳部殿ハ乳ものもの

元金とくどくしたるものなり

一 小四郎殿そもそも食の初めて歯の出たる時より何とも
又食ハしむ事しかるに初てかくのごとくあるは就実の事
八月しもだくずゝ実とも其邪出来事無事無事
丁如来より出生法華経と一元氣と補助ふ
良薬出生ゆえ鉄体とんとう歯の出たる食体
とも多脾と雖共石蔵出来事と保と飲食外なる
ものゝ元性地より食物とも出たるものハ土と出たる食物
大変多育之食しゝ食ふ性なるの毒なるとく
小四郎殿ハ下痢くゝ性なるゝ体なるゝ小
哭と例しもあるとくゝ氣滞して病なるゝと
理りし氣中より出て体つるの四一氣中に毒物と食て
なるゝ及中ゝ多理ハなるしおゝ極て毒よ
なるとのハ人ハ出ることしる唯人くの氣交せ出ゝ
妊しゝ時ハ母の毒ハよりて胎ゝ中ゝ小四郎
発ハ物ハ発して減ハ出ゝ毒と見ハ不日
痛ふまぎ発の病ハ発セハ早く治と見ハ不日
よして治ゝ事ハ病ハ人ハ毒ハ発ゝ
発セ性ハ四ハ人ハ毒ハ発して指元元ハ大なる

Kitasato Memorial Medical Library

少し食あり行きて[illegible]
まで飢えたる小四人[illegible]
[illegible]
[illegible]

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library

大黄を酒にてせんじ当帰中 香附子中 芎藭中
白朮中 甘草小 合之味
右の通り用てよく一合半のとき
さらづて毒気のこれなき様に成よう可申候
脇あつき方 当帰大 川芎中 牡丹皮 石斛
枳実中 陳皮中 赤茯苓中 白朮中 香附子中
海藻大 荊芥中 蟬退小 甘草少 合十味
右半日程用 当帰 川芎 白朮 白芍 甘草
右の内 味深ひくし 合湯大の内
半味 半毒

当帰 川芎 白朮 牡丹皮 石斛 陳皮
赤茯苓 海藻 蟬退 甘草 荊芥
合十味 半日程用 あとこれを入二度

一 大黄大のこと
右 正傷腸へ当 紅花一匁 桃仁一匁 炒て焼
此さふらんの代事 子肝ケ 焼中の代
一 当帰 川芎 牡丹皮 石斛 陳皮
赤茯苓 白朮 香附子 芎藭
ぬるい湯 甘草 荊芥 合十味
一 三度 疝毒 当帰 川芎 紅花 桃仁 牡丹皮
近胡 赤小豆 牡丹皮

Kitasato Memorial Medical Library

[illegible]

一 今[illegible]帰り[illegible]対[illegible]屋[illegible]犬の[illegible]
[illegible]
[illegible]

武田甲斐の源家八幡宮武田信玄
長田の長の長子の武田信玄
元亨祥あるべきの名を改めしと
澤長風長頭長の人々川長長ぶ
あ長長使長長と感じ

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library